

投稿規定 (2025.5.31 付)

1. 投稿内容について

作業療法の学術的発展に寄与する論文として、「論考」、「総説」、「研究論文」、「実践報告」、「短報」(以下、論文)の投稿を随時受け付けます。ただし他誌に発表された論文、または投稿中の論文はお断りします。

2. 倫理的事項について

著者は、著作権や研究対象者の人権の尊重に努めて下さい。また、研究データや個人情報を生成 AI に入力してはなりません。

3. 著者について

筆頭著者は原則として宮崎県作業療法士会会員に限りします。ただし、作業療法の発展に特に寄与すると宮崎県作業療法士会学術誌編集委員会が認めた場合はこの限りではありません。共著者は県士会員でなくても構いませんが、作業療法士である場合は(社)日本作業療法士協会会員であることを条件とします。なお、著者の数は5名までとし、それ以上にわたる場合は謝辞の対象に入れて下さい。

4. 著作権について

採用された論文の著作権は、一般社団法人 宮崎県作業療法士会に帰属します。

5. 論文の種目と長さについて

①**論考**：国内外の作業療法および関連する医療・保健・福祉の動向、政策、潮流など時宜に適った話題に関する分析の総括的解説および提言。論文の長さは、本文、文献、図・表を合わせて、A4用紙8枚程度(余白：上下左右20mm、MS明朝体、フォントサイズ10.5)、図・表は8点程度までとする。

②**総説**：作業療法および作業療法関連科学の特定のテーマについて、過去の研究を概観し、将来的展望を視野においた組織的な評論および総括。論文の長さ、図・表は①に準じる。

③**研究論文**：実験、調査、臨床経験、理論研究などから得られた独創的で斬新な知見を含む結果の考察および記述。論文の長さ、図・表は①に準じる。

④**実践報告**：特色ある作業療法実践(事例報告を含む)に焦点を当てた報告。治療手段としての活動、道具(自助具、遊具、生活用具)、情報、アイデアの紹介。論文の長さ、図・表は①に準じる。

⑤**短報**：独創性のある所見、見解の速やかな発表を期待するパイロット的研究報告。後に詳しい「研究論文」として書くことが期待される。論文の長さは、本文、文献、図・表を合わせて、A4用紙4枚程度(余白：上下左右20mm、MS明朝体、フォントサイズ10.5)とする。図・表はそれぞれ1点程度とし、大きさは①に準じる。

6. 執筆要領について

後出の「執筆要領」に従って下さい。

7. 生成 AI の使用について（新設）

生成 AI（例：ChatGPT, Bard, Claude 等）を論文作成の補助として使用した場合は、使用の目的と範囲を明記してください。生成 AI は著者として記載することはできません。使用した場合でも、あくまで補助的な役割とし、最終的な表現内容およびその責任はすべて著者が負うものとします。使用を明記する場合は、論文内の「謝辞」や「方法」等のセクションに、次のような例を記載を行ってください。例）本稿の執筆にあたり、OpenAI 社の ChatGPT（GPT-4）を文章構成の支援目的で使用した。生成された内容はすべて著者が確認・修正を行い、最終的な責任を負っている。

8. 採否について

原稿の採否は宮崎県作業療法士会学術誌編集委員会において決定します。場合により、加筆、修正をお願いすることがあります。また、編集委員会の責任において多少の字句の訂正を行うことがあります。

9. 再投稿について

修正後再査読の論文は 1.5 ヶ月以内に再投稿してください。それを過ぎた場合は新規投稿として扱われます。

10. 校正について

著者校正は原則として 1 回とします。校正は赤で行い、指定の期限内に返送してください。

11. 投稿の手続きについて

①執筆形式の確認：後出の執筆要領に沿っていることを確認してください。②下記宛に提出してください。

宮崎県作業療法士会学術誌編集委員会 E-Mail : miyazaki_ot_manabi@yahoo.co.jp

執筆要領(2020.3.31付)

1. 原稿は、全て横書きとし、字数制限はなくA4用紙8枚程度とします。
2. 論文は、表題頁、要旨、本文、文献、図、表から成るものとします。
3. 表題頁には、論文種目（研究論文、実践報告など）、表題、著者名、所属、要旨、キーワードを書いてください。
4. キーワードは、作業療法キーワード集より3つ選択してください。
5. 論文の本文は、原則として、はじめに、方法、結果、考察、結論が明らかになるように書いてください。
6. 文章表現は以下の点に留意してください。
 - ①現代かなづかいとし、数字は算用数字、数量は国際単位系（SI 記号）を用いる（例；cm, mm, kg など）。
 - ②外国人の人名には原語を用い、活字体で明瞭に書く。
 - ③術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて（ ）内に原語を入れる。日本語化しているものはカタカナとする。

7. 倫理上の配慮について

論文として掲載される研究は、調査・研究の倫理的原則に従ったものである必要があります。投稿者は研究対象者の権利を尊重した表現を行う義務があります。学術誌編集委員会は、必要に応じて、これらの事項に関する証明を投稿者にお問い合わせすることがあります。

8. 引用・転載について

論文作成にあたっては、著作権について配慮を行ってください。論文中に他の著作物からの引用を行うときには、その出典を明記してください。また、引用の範囲を超えた「転載」には、著作権者やその著作物の出版社の許諾が必要です。論文が掲載されるために必要となる「転載」についての手続きは投稿者が責任をもつこととします。

9. 文献リストは引用文献のみとし、表記の形式は以下の例にならってください。

- 1) 岩間孝暢, 原 英修, 清水 一: 座位保持機能未獲得な重症心身障害児の姿勢と感覚遊び刺激に対する反応. 作業療法 11: 358-365, 1992.
- 2) 中村隆一, 斉藤 宏: 基礎運動学. 第3版, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 3) 米倉豊子: 内科的疾患に対する作業療法. 原, 鈴木・編, 作業療法各論(リハビリテーション医学全書 10), 医歯薬出版, 東京, 1978, pp. 393-406.
- 4) Witt A. Cermak S. Coster W: Body part identification in 1-to 2-year-old children. Am J Occup Ther 44:147-153, 1990.

- 5) Enna CD:Peripheral Denervation of the Hand.Alan R Liss Inc., New York, 1988.
- 6) Reid J:Computer and occupational therapy.In Creek J(ed), Occupational Therapy and Mental Health. Churchill Livingstone, New York, 1990, pp.267-288.
- 7) Pinel P (影山任佐・訳): 精神病に関する医学=哲学論. 中央洋書出版部, 東京, 1990.
- 8) Cook AM.Hussey SM (上村智子・訳): 作業療法実践のための電子支援技術. Pedretti・編著(宮前, 清水, 山口・監訳), 身体障害の作業療法, 改訂第4版, 協同医書出版社, 東京, 1999, pp. 583-599.
- 9) Chung JCC:Using problem-based learning (PBL) with Hong Kong occupational therapy Students:Opportunities and challenges. Asian J Occup Ther 2:10-22, 2003.(on line), available from <http://www.jstage.jst.go.jp/article/asiajot/2/1/10/_pdf/-char/ja/>, (accessed 2003-12-21)
- 10) 日本作業療法士協会: 学術誌「作業療法」論文投稿に関する倫理指針. (オンライン), 入手先 <http://www.jaot.or.jp/members/gakujutushi_toko_rinri/>, (参照 2012-04-27).

10. 図・表は次の点に留意してください.

- ①図は白黒で印刷されるので, 鮮明でそのまま製版できるものを準備する.
- ②写真はトリミングを工夫する.
- ③図・表はすべて表題をつけ, それぞれを本文とは別にまとめる. 図は表題の他に説明もつける.
- ④本文中および欄外に図・表の挿入場所を明示する.
- ⑤引用・転載の図・表は, それぞれ出典を明記する.